

キャリア教育調査研究委員会

一 テーマ

児童生徒一人ひとりが夢や希望をもち、自己実現を目指して自己の個性を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てていくキャリア教育のあり方

二 テーマ設定の理由

学習指導要領において、特別活動を要とし学校教育全体を通してキャリア教育を進めていくことが示されている。変化の激しい社会にあって、個々の児童生徒が将来における職業生活に備えて、学校における社会との接続を意識した「社会的・職業的な自立に向けて必要な資質・能力」の育成は、自己実現を図る上で重要なものとなっている。更に、委員会の中で、コロナ禍により中心となる体験活動が制限される中で、キャリア教育の計画を立てることやキャリア教育に関わる活動をすることが、むずかしいという意見もあった。そこで上のテーマの基、各校のキャリア教育における課題を共有し、

『1 キャリア・パスポートの活用の工夫』

『2 学校と地域社会との連携の推進』

『3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する』

に重点をおき、研究を進めていきたいと考えた。

三 研究の経過

5月19日(木)	第1回委員会	研究計画立案
7月11日(月)	第2回委員会	各校の実践報告と情報交換
9月15日(木)	第3回委員会	研究の進捗状況と情報交換
10月27日(木)	第4回委員会	研究の進捗状況と情報交換
1月12日(木)	第5回委員会	研究の進捗状況と情報交換 「研究のまとめ」の作成

四 研究内容

1 「キャリア・パスポート」の活用の工夫

(1) 上田市立城下小学校の実践から

本校は、昨年度からの実践として、『キャリア・パスポート』にとじこむものに、『自分の成長できたこと』や『これから実践していきたいこと』など『キャリア教育の学びの視点』に立ったふり返りを書く欄や項を設けることにしている。このようにした背景には、例えば、学期のふり返りや行事のふり返りにおいて、学期や行事に関わった頑張りは書いていても、その頑張りと以後の生活と結びつけて考えていられなかったことがある。本年度、『キャリア教育の学びの視点』に立ったふり返りを書く欄や項には「私は音楽会で◎◎ができるようになった。これまで音楽が好きではなかったけれど、音楽会で担当した楽器をこれからももっとできるように練習したい」や「私は◎◎が得意だとわかりました。これからもっと◎◎が得意になるようになりたいと思います」など書いてあった。キャリア・パスポートにとじこむものを学期や行事のふり返りとして、ただ書いていくのではなく『キャリア教育の学びの視点』に立ったふり返りをしていくことが重要であると考えている。

2 学校と地域社会との連携の推進

(1) 上田市立第三中学校の実践から

① 2学年職場体験学習事前講演会

学校支援 Co の西田さんに地域で働く方を紹介してもらい、事前学習として講演会を行った。中沢康輔さん(自家焙煎珈琲店)が、「働くとは？」をテーマに講演して下さった。生徒は、身近な地域で働く方の、職業を選んだ動機や地元で開業された背景などのお話を聞くことを通して、職業選択していくうえでの物の見方や考え方を広げる機会となった。

② 2学年職場体験学習

本年度は 39 の事業所のご協力を得て、職場体験学習を行った。以下は、生徒のふり返りである。

- ・(省略) コミュニケーション能力が本当にすごいなと思いました。そして、今後、この職場体験学習を通して学んだ人に対する態度、コミュニケーション力を生活に生かしていきたい。(人間関係形成・社会形成能力)

- ・接客では「大きい声」「笑顔」が大切なことを知ったからこれからの生活の中で初対面の人でも「大きい声で話す」「笑顔でいる」「ポジティブ」を大事にしていきたい。(人間関係形成・社会形成能力)

- ・職場の方は、すれ違った人全員にあいさつをしていました。あいさつはこれからずっと使うものなので自分のあいさつを磨いていきたいと思いました。(キャリア・プランニング能力)

コロナ禍であり規模を縮小する形となったが、地域の企業のご協力により体験的学習を通して、キャリア教育での資質・能力を育む姿が数多くあった。

(2) 上田市立第一中学校の実践から

3学年 「一中 SDG s プロジェクト 地域貢献活動」

①活動のねらい

- ・地域の方々が今まで、自分たちを支えてきてくださったということに目を向け、感謝の気持ちをもつとともに、地域の一員として、今度は自分たちが地域に対して行えることについて考える。

- ・地域を意識した活動を行う中で、SDG s にも含まれている、「住み続けられるまちづくりを」という観点で、地域の一員として、ただ与えられるだけでなく、自分たちが地域に対してできることがないかを考え、行動に移す力を身につける。

②活動の様子

- ・事前にアンケートを取り、自分たちが地域のために実施できる活動は何かを考えた。

- ・アンケート結果を踏まえ、3学年で上田バイパス沿いの清掃活動(草むしり、ゴミ拾い)を行った。

【活動後の生徒の感想】

- ・地域の方々の「頑張ってる。」「ありがとう。」の声がとてもうれしかった。その声のおかげで、疲れていても頑張ろうという気持ちになった。たくさん草が取れたし、道がきれいになったので達成感があった。

- ・最初は草がたくさん生えていたけど黙々とやっていくうちに、草がだんだんなくなっていくし、きれいになったので良かった。袋を運ぶ人やほうきを配る人など、みんなで協力して取り組めたので、感謝の気持ちを行動で表現できたのかなと思った。



・清掃中地域の方々に「すごいね」や「ありがとう」と言われて、人や地域のために活動を行うことはとてもいいことだと改めて実感した。

③活動の成果と今後の課題

例年、各学年地域との交流をもつ活動は、単発的な行事で終わってしまっていたが、今年度は1年次に「地域に触れる」、2年次に「地域に関わる」、そして3年次に「地域に貢献する」をテーマに据え、SDGsを軸として、連続性のある学びへと転換をはかった。特に3年生は1・2年次、地域の方々にお世話になっていることから、私たちができることを模索し、実行することに重きをおいた活動にチャレンジすることができた。



一方で、コロナの影響もあり、活動の実施時期が遅くなってしまったため、取り組みが単発的なものとなってしまった。また、1・2年次の積み重ねが不十分であったため、教師が主導する形の活動となってしまったことも課題である。次の活動につながるふり返りや手立てを行うとともに地域の人とのかかわりを持てる活動をもつことができるとさらに充実した活動につながっていくと感じている。

(3) 東御市立祢津小学校の実践から

【特別活動 なかよし学級との交流会の中のキャリア教育の視点】

- ① **ねらい**：なかよし交流会に参加する1年生を楽しませたいという願いをもって、意欲的に活動し自己有用感を感じることができる。参加者に楽しんでもらうための内容を考えて、ルールを話し合っ決めて。(人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力)
自分や仲間の行動を評価(見直し)して、よりよい計画を立てる。(自己理解・自己管理能力)
自分達のよさ、成長、課題に気づける。年齢の違う相手を思いやり、自分が働いて相手を喜ばせる楽しさを感じることができる。(キャリアプランニング能力)

【6年生 なかよし学級の1年生との交流 1年間の活動の流れ】「」は6年生の反応。

- ① 6年生として、1年生のためにやりたいことや自分達にできることを考える。
「1年生に早く学校に慣れてほしい」「6年生として、他の学年と関わり何か学校の役に立ちたい」「みんなが楽しめるようにしたい」・・・勉強を教えたい、遊びたい、読み聞かせをしたい。
- ② 交流会の計画を行い、準備、リハーサル→実施→ふりかえり
*グループごとやりたいレクリエーションやプレゼントづくりなどの計画を立てて実行する。
「計画や連絡をしっかりとしないとみんなが困ってしまう」「リハーサルをすると課題が見えてきた」
- ③ 1年生からの感謝の交流会(お返し)・・・遊びやクイズのお店屋さんを開く。
「1年生が自分達のためにお礼をしてくれた」「これまでの楽しんでもほしいという思いが伝わって嬉しかった」「一緒に遊ぶのは楽しい」「更に喜んでもらえるようなお返しをしたい」
- ④ 休み時間や朝の時間、学級の時間を使い、児童の願いを大切にしながら交流を続ける。

【実践のふり返り】

- ・計画を立てて、リハーサルとして自分達でレクリエーションを行うことを大切に。実際に取り組んでみると、計画の足りないところが分かり、アドバイスし合う姿があった。実際に交流した後ふり返りを大切に、次回への思いを確かにした。
- ・自分の行動で他者を喜ばせることに喜びを感じられる6年生の児童が多かった。積極的に1年生に声をかけようしたり、自分の任せられた仕事を全うするとともに、新たに計画を立ててみんなで楽しい活動しようと思意欲をもって行動をしていた。また、活動後にふり返りの時間を設け、「これからの活動に生かせそうなこと」「自分が成長したこと」を想起するよう心がけることで、キャリア教育の4つの力を意識することができた。

- ・1年生は、お世話になった6年生に何かお返しをしたいと願い、遊び屋さんの準備を行った。自分が楽しむ遊びの活動に加え、他者のために行動する喜びを感じていた。
- ・学級同士の少数の関わりなので、感染症対策を行いながら実施しやすい。学級を越えた異年齢同士の取り組みにより、子ども達も目的意識をもち充実した活動を行うことができる。



交流活動例

- ・自己紹介名刺を交換しよう ・iPadの使い方を知ろう ・読み聞かせをしよう
- ・手作りプレゼントを渡そう ・お掃除交流 ・休み時間に一緒に遊ぼう
- ・一緒に体を動かして遊ぼう(風船バレー・鬼ごっこ・ドッジボール・だるまさんが転んだ 等)
- ・1年生感謝の会のお店屋さん出店(射的やボーリング等のお店を出店、景品なども作る。)

(4) 上田市立北小学校の実践から

北小学校では8年前より5・6学年による職場体験学習を行っている。将来の進路について、まだ明確でない小学生であるので、ねらいを「地域の職場で実際に働く経験をさせていただく中で、働くことの意義を考え、生きる力の醸成につなげる。」「地域の多様な人々との関わりから、多くの人に見守られながら自分が生きていることを感じ取り、あいさつやコミュニケーションといった社会力を身につける機会とする。」という2つとしている。

本校では、学校目標「花とみどり笑顔の学校」を受けて、「社会において、自立的に生きる力の育成、十年後、二十年後に大輪の花を咲かせるための今の創造」を柱にして、日々の教育活動に取り組んでいる。子どもたちがこれから生きていく社会は、様々な問題が山積し、予測不可能なことだらけであり、課題を乗り越え解決していく力が必要となる。その力を育成するために必要となってくるのが、「人とつながること」であり、人と人がつながることが新しい社会をつくっていく力の源になる。本校では、人と人がつながるために、「多様な他者と関わり合う場」を設け、多様な他者と直に相互に関わることを通して、子どもたちが人に対する関心や愛着を深め、信頼感を構築できるような取組を行っており、職場体験学習の2つのねらいも、この考えに基づいている。

今年度は10月に5学年、11月に6学年が市内二十数カ所で職場体験学習をさせていただいた。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったため3年ぶりの実施となった。受け入れていただく事業所は、子どもたちに身近な学校から徒歩圏内として、一つの職場に行く人数は多くて3人程度(今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による受け入れ事業所減少のため5人程度)として、地域の大人と密接な関わりをもてるようにしている。

更に学校から事業所への往復は、地域ボランティアや保護者の方に引率をお願いするのが恒例で体験学習前日に顔合わせ会を行い、全体会の後は方面別グループごとに車座で自己紹介や雑談を行いながら交流を深める機会をとっている。

なお、職場体験学習を行うに当たっては、それまでの学年で職場体験学習につながる取組を行い、職場体験学習が「お客様体験」で終わらないように心がけている。例えば3学年では社会科の学習と関連させて地域のスーパーを見学して人々の営みを学んだり、総合的な学習で地域のリンゴ農家の方の指導のもと、一年間かけてリンゴの栽培を体験させていただきながら、リンゴ農家の方の農業に寄せる思いを体感したりしている。また、全学年を通して、学校目標の「花とみどりと笑顔の学校」の実現に向けて、学校前の、上田駅へつながる幹線道路に作られた花壇（フラワーロード）をクラスごとに管理をしている。この花作りへの取り組みが、咲いた花をともに楽しんだり、地域の方に喜んでもらったりすることにつながるとともに、見通しをもって活動し、役割を果たし、働くことの良さを実感できることにもつながり、さらには職場体験学習にもつながっている。



今後、学校での活動の様々な場面で職場体験学習とのつながりをさらに意識させることで、地域の中で生きている自分たちの姿が一層明確になり、年一回の職場体験学習をより充実したものになっていくと思われる。職場体験学習に向けた一連の学習内容をさらに磨き上げていきたい。

3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する。

(1) 上田市立第三中学校の実践

職場体験終了後に、英語の授業で、職場体験学習を題材として授業を行った。A生は、「職場体験学習で学んだことと」を「コミュニケーション能力の向上が大切」「生徒への叱り方を学んだ。」と書いた。また、「夢を実現するためには、どのようなことが必要だと思うか」という教師の問いに対して、A生は「I thought I needed to improve my communication skills in order to become a teacher. (私は、教師になるために、コミュニケーション能力を向上させることが必要だと思った。) I want to be a teacher. I want to try and I like children. (私は、教師になりたい、挑戦したい。私は子どもが好きだ。)」と答えた。

A生の姿は、計画的に教科等横断的に扱うことで「自己理解（成長の実感、好きなこと、努力すべき点の理解）」が深まっている姿と考えられる。

(2) 上田市立塩田中学校の実践から

① 1学年地域巡り

◎ 1日目…班で計画したコースに沿って、1日かけて地域の寺院や名所を巡った。

- ・自分たちの班が、どんなコースでその場所を訪れるか計画を立てる。
→グループの仲間と話し合うことができた。自分たちが住む地域を知れた。
- ・当日、大人がついていない中で、計画に沿って行動する。
→集団行動するために、自分勝手にならずに協力しようとしていた。

臨機応変に、計画を練り直すこともあった。

◎ 2日目…無言館を訪問した。

- ・戦争の恐ろしさ、非情さについて感じた。

【人間関係形成能力・社会形成能力】【課題対応能力】

② 2学年職場体験活動

◎70以上の事業所に協力いただいた。

→1つの事業所当たりにも少人数で体験することができた。学校とは違う環境の中で、真剣に取り組むことができた。

→あいさつ、言葉遣い、態度などが大切であることを伝えていただいたり、実感させていただいたりした。

→どんな単純の作業でも丁寧にやっていることを感じた。

【自己理解・自己管理能力】【キャリアプランニング能力】

◎3 学年地域貢献活動・進路学習

◎地域貢献活動

・地域の公民館や駅などの草取りや清掃活動などを行った。

→地域への感謝を伝えることができた。地域の方からも温かい言葉をかけていただいた。

【人間関係形成能力】【社会形成能力】

◎進路学習

・高校の先生方に来校していただき、直接、お話をお聞きした。

→高校に入るまでの生活の過ごし方、学習方法などを見直すことができた。

【自己理解・自己管理能力】【キャリアプランニング能力】

五 研究のまとめと課題

(1) 『キャリア・パスポート』の活用の工夫について

キャリア・パスポートにとじこむものについて、行事のふり返しだけでなくキャリア教育の視点である子どもの「自己理解」「他者理解」「役割理解」につながるような内容を書くことで、キャリア・パスポートとキャリア教育とが結び付くと思われる。キャリア・パスポートにとじこむもの内容（書く項や欄の設定）を更に工夫することで、キャリア・パスポートの内容が充実すると思われる。そして、キャリア・パスポートの内容の工夫だけではなく、子どもが活動や体験をすることにも重点をおいて、キャリア・パスポートを活用していくことが大切であると思われる。

(2) 「学校と地域社会との連携の推進」について

コロナ禍により体験活動が制限されたとしても、子どもの学びのために地域の方と連携しながら「コロナ禍でもできること」を模索していきたい。キャリア教育に関わる学習を行う環境（小学校で職場体験ができるなど）が異なるので、可能な環境の中で実践していくことが大切であると思われる。

(3) 「キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する」について

学習指導要領と既存の教育活動を目的に照らして見直していきながら、学校教育全体を通して、キャリア教育を推進していきたい。体験活動に限らず、キャリア教育の視点で教育活動全体からその地域・学校の良さを学び、自校の環境、各学年の発達段階や実態に合った教科指導を行っていくことが大切であると思われる。